

第 18 回年次大会（名古屋）と新企画

会長 森 孝晴

今年の大会は名古屋で開催しました。名古屋地区では5回目となります。**WINC AICHI**という便利なうえに立派で素敵な会場で年次大会を開催できましたことは何よりでした。まずは、現地ですべてをお世話くださった山田國男副会長に深く感謝したいと思います。人数は20人を越え、広く全国から参加していただきました。ご参加いただいた皆様に心からお礼申し上げます。

今回の大会では、初めて3本の研究発表が行われました。しかもそれぞれが別々の視点を提示したとてもレベルの高いもので、協会の力量を見せつける結果になりました。いつものように講演も用意され、当協会顧問の内野氏が興味深いお話を聞かせてくださいました。研究発表をしていただいた野口、衣川、大矢の各氏と内野氏にこの場を借りてお礼申し上げます。

もうひとつ画期的なことがありました。わが協会の学会の側面を強化すると同時に、質の向上が目覚ましい会員諸氏の業績をすくいあげたいとの思いから、私のほうから昨年の大会で研究誌の創設を提案させていただいたことはすでにご報告しましたが、今大会では正式の提案をさせていただき、全会一致でご承認いただいたのです。具体的には、協会としての学術論文集『ジャック・ロンドン研究』の発行とそのため編集委員会・査読・投稿に関わる三規定をお認めいただいたもので、私としては早速今号の『呼び声』において投稿論文の募集を始めることにしました。第1号の発行は20回記念大会時を目標にしています。ぜひふるってご応募ください。

学会としてのレベルを上げつつ会員さんのすそ野を広げていくことは決して簡単ではありませんが、それが当協会設立時からのコンセプトなので、この道を堂々と突き進んでいくのみです。名古屋大会時にもまたその後も新会員は増え続けています。支部を増やそうとの動きも聞こえてきます。読書会活動をさらに充実させ、エッセイ集のさらなる質的向上も目指しつつ、一方で新しい企画も取り入れていきます。歩みを止めると後退が始まるような気もしますので、一步一步前進してまいりますので、ぜひご一緒に歩いていただきますようお願いいたします。

(2010/09/20)